

2019年3月1日

## 眼科に通院中の患者さんへ(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

**研究課題名** 黄斑下出血例の病態及び視力予後に関する多施設後ろ向き観察研究

**研究責任者** 名古屋市立大学 眼科 安川 力

(共同研究期間)

兵庫医科大学病院眼科

市立札幌病院眼科 (担当: 木下 貴正)

徳島大学病院眼科

福井大学病院眼科

奈良県立医科大学病院眼科

滋賀医科大学病院眼科

筑波大学病院眼科

鹿児島大学眼科

神戸大学眼科

### 研究の目的

加齢黄斑変性は高齢者の視力低下の主な原因疾患の一つであり、黄斑(視力にとって最も重要な網膜の中心部分)下に出血して急激な視力低下を来すことがあります。同様に網膜細動脈瘤が破裂すると黄斑下に出血することがあり、これを放置すると高度に視力が低下します。これに対して現在、臨床の現場では、黄斑部から出血を移動させることを目的として眼内にガスを注入したり、出血除去のために硝子体手術を行ったりすることがあります。眼球への注射が選択される場合もあります。しかし、具体的な治療内容は多種多様で、視力予後は一定しておらず、長期的な治療成績もばらつきがある状況です。今回、私たちは、黄斑下に出血を合併した症例を集め、出血に対する治療後の長期予後について観察研究を行います。同時に、発症から治療までの期間や治療内容、出血のパターン等が出血後の予後に影響を与え得るかどうかを検討します。これにより、適切な診療方針および治療法の選択に繋がるような有益な情報が得られる事が期待されます。

#### 1 対象となる患者さん

2015年4月1日から2018年10月31日までに加齢黄斑変性症または網膜細動脈瘤破裂に伴う黄斑下出血で当科を受診された方

## 2 利用するカルテ情報

年齢、性別、視力、病型、既往歴、治療方法、画像（眼底写真、光干渉断層計、蛍光眼底撮影）などを調査します。

### 個人情報の取り扱い

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は、ご連絡ください。

### 【お問い合わせ先】

北海道札幌市中央区北 11 条西 13 丁目  
市立札幌病院眼科